



高雄池、美迫池  
池守  
仲村 俊英 さん

世界農業遺産旭日プロジェクト  
事務局長  
清原 正義 さん

旭日地区に点在する複数のため池では、連携して田畑に水を供給するシステムが江戸時代から今日まで運用されています。

今回は地域を支えるGAP\*事務局長の清原正義さんと池守の仲村俊英さんにこれまでの取り組みや次世代への思いをお聞きしました。

※GAP(GIAHS Asahi Project)=世界農業遺産旭日プロジェクト

池を守る人達

清原さん

旭日地区には21のため池があり、今でも現役で全て使用されています。9年前に当時区長をしていた私は、このため池を題材に地域の歴史や魅力を伝えようと旭日地区全員を会員としたGAPを立ち上げました。ため池を回るウォーキングコースの作成をはじめ、視察には海外から訪れてくることも。GAPの活動を通じて地元の活性化を図っています。

仲村さん

私は池の水の増減を踏まえて、ため池からの放流や貯水量の管理をする「池守」の役を担っています。網井地区の6つのため池のうち、一番大きい高雄池と地区一帯に水を配る要の美迫池を管理しています。天気予報や水田の状況などを総合的に判断しながら水の量を調整し、すぐには水を流さないといった判断をすることも。本当に責任のある大変な仕事です。

地域の主役は人と池

仲村さん

昨年、管理する両方のため池の水位が大幅に下がり、加えてほとんど雨が降らない時期がありました。その時は不安で寝られない日々が続きました。池守としかたがたです。池守として地区のみんなに水を渡したい思いがあっても、それはあくまで水があつての話。当たり前前に存在する水の重要性を痛感しました。

清原さん

ため池の必要性や役割を小学校の遠足などで子どもたちに教え、未来に繋げることもGAPの活動です。農業を休まず続けるために、日々多くの人が協力したため池を維持しています。ため池は農業用水としてだけでなく、防災対策の役割も。農業従事者だけでなく地区のみんなが「水」について自分事として考えなければなりません。

次世代に伝えたい

清原さん

先人たちが何百年も苦勞して作り上げてきた地域の宝を、私たちの代で絶やすわけにはいきません。昔の苦勞があつてこそ今の私たちの生活があるのです。池をどういう形で守り、どう引き継ぐか、知恵を出し合い伝えていくことが私たちの使命です。

仲村さん

地域が高齢化し、担い手の人材不足も大きな課題です。池守を8年間務めている経験や苦勞、昔からの教えをこれからの未来を担う若者に伝え、引き継いでいかなければなりません。



1 APUの学生へため池の仕組みを教える清原さん

2 「このハンドルで取水口を開け下流の池と田畑に送水しています」と仲村さん

3

世界農業遺産 認定10周年を迎えて

国東半島宇佐地域世界農業遺産推進協議会 会長 林 浩昭 さん



昔からの姿をとどめたい乾燥小屋の前で撮影

です。

また、世界農業遺産を発展させていくことは、SDGsを達成することにも貢献します。11月には10周年記念イベントも開催されます。この機会にもう一度、認識を高め、地元の商品や農業など国東にしたいものをもっと広くPRしていきたいと思っています。

世界農業遺産は、一次産業従事者のためだけにあるものではなく、市民の多くが参加し発展させていくことが重要であると思います。これまでここで生きてきた人々の営みが世界に認められた意義を子どもたちに伝え、将来彼らが、少子高齢化の最前線である国東に戻って、この地の発展に貢献してくれるようになることを強く願っています。

K-4

クヌギ林とため池  
世界農業遺産の魅力を感じる13.4km

国東半島  
峯道  
ロングトレイル

国東半島をぐるっと一周歩いて巡る「国東半島峯道ロングトレイル」は、さまざまなコースが用意されています。

K-4コースでは、ため池や広大なクヌギ林、原木シイタクのホダ場など世界農業遺産の魅力を感じられるコースとなっています。

この機会に、世界農業遺産の美しい景観に触れながら、峯道トレイルを歩いてみませんか。

認定されてから10年間、世界農業遺産がどういうものであるかをより多くの人に知ってもらいたいと地道な活動を積み重ねてきました。小・中学校や高校での次世代継承教育や一次産業従事者との農業遺産活用議論や交流人口増加を目指した観光関連事業実施など活動は多岐にわたります。

また、観光事業者と連携して、ため池見学としたいだけ収穫体験をセットにした農家の方と触れ合うツアーの造成も行い、多くの魅力を発信してきました。

世界農業遺産という難しく捉えてしまいがちですが、例えば、皆さんが普段水を大切に使うという意識、そして、そのための行動が世界農業遺産を守ることに繋がるの



国見中学校の生徒へ講演をする林会長

国東半島宇佐地域世界農業遺産認定10周年記念シンポジウム

2013年5月、大分県国東半島宇佐地域(豊後高田市、杵築市、宇佐市、国東市、姫島村、日出町)の「クヌギ林とため池がつなぐ国東半島・宇佐の農林水産循環」が世界農業遺産に認定されました。今年、認定10周年を迎えるにあたり、記念のシンポジウムを開催します。どなたでも観覧できますので、ぜひご参加ください。

11.21 Tue. 午後1時開会 (午後0時30分受付)

場所 アストくにさき

内容・記念講演

「持続可能な地域づくりを目指す農業遺産」  
公益財団法人地球環境戦略研究機関 (IGES)  
理事長 武内 和彦 氏

・パネルディスカッション1

「国東半島宇佐地域の活性化」

11.22 Wed. 午前9時30分開会 (午前9時受付)

場所 アストくにさき

内容・基調講演

「世界農業遺産：今後の地域活性化と、それに向けた国際連携戦略を考える」  
東京大学大学院農学生命科学研究科  
教授 八木 信行 氏

・パネルディスカッション2

「世界農業遺産を未来の世代に繋ぐ」

・ユース取組発表

・聞き書きユースセッション